

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名 林業架線技術者育成事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 担い手企画係 電話番号：058-272-8491

E-mail：c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 2,210 千円 (前年度予算額：2,400 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,400	1,083	0	0	0	0	0	0	1,317
要求額	2,210	1,083	0	0	0	0	0	0	1,127
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

急峻な地形が多い本県において、路網整備が比較的困難な場所においても施業が可能な「架線集材技術」は効率的な施業を行う上で必要な技術である。

そのため、林業架線作業者の育成及び架線集材技術の指導を実施することで皆伐・再造林を推進する。

(2) 事業内容

①現場参入ツアー

架線技術者の技術向上のため、他事業体の現場を回り索張りの方法等について技術者同士が意見を交わすことで架線作業に対する見聞を広める。

②架線作業実務研修

他事業体の現場において各作業の見学及び実務を通して作業技術の習得を図る。

③林業架線作業主任者免許試験対策講習

架線作業の現場において配置が必要となる免許取得者の確保支援のため、免許試験の対策講習を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

国1/2 (森林・林業・木材産業グリーン成長総合対策補助金)

県1/2 (一般財源)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	432	報償費
旅費	444	業務旅費
需用費	220	研修資材費、燃料費
役務費	75	保険料等
委託料	995	研修使用機械点検用
負担金	44	特別教育受講料
合計	2,210	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画

森林整備を推進するため、架線による集材ができる技術者を育成することとしている。

(2) 国・他県の状況

- ・林業架線作業主任者免許規程に基づく講習の実施：16県
- ・学科講習の実施：5府県
- ・実技講習の実施：1府

※令和3年度調べ（令和2年度時点）による。

(3) 事業主体及びその妥当性

<実施主体> 県

<妥当性>

架線集材技術は今後、主伐・再造林を効率的に進めていくうえで必要な技術であり、その技術の取得を促進するために県が講習及び指導を行うことは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

架線集材技術を持つ森林技術者を育成することで、県内の素材生産量を令和8年度までに650千m³まで増やします。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①木材生産量	576	576	600	612	650	89%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>林業架線作業主任者講習を実施し、免許を受けることができる者を10名養成した。</p> <p>指標① 目標：580千m³ 実績：576千m³ 達成率：99%</p>
令和3年度	<p>林業架線作業主任者講習を実施し、免許を受けることができる者を6名養成した。</p> <p>指標① 目標：600千m³ 実績：576千m³ 達成率：96%</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない 	
(評価) 2	急傾斜地における木材生産を活発化させるため、「架線集材技術」の継承は重要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない 	
(評価) 2	令和3年度は林業架線主任者免許を受けることができる者を6名育成した。講習修了者は、林業架線技術をもつ者として現場で活躍している。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている 	
(評価) 1	森林文化アカデミーと協働で実施することにより効率化が図られている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 主伐・再造林を推進するため、森林技術者における架線集材技術のさらなる向上を図る必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 主伐・再造林を推進するため、引き続き急傾斜地での木材生産に適した架線集材の普及と技術者育成を積極的に進める。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由 や期待する効果 など	【〇〇課】